

# 看護のおいたこ

第109号

平成30年  
11月1日発行



川島整形外科病院は1981年に川島整形外科として開院しました。この間、施設を充実させ法人内に「かわしまクリニック」「かわしま介護ケアセンター」を開設し、急性期から在宅まで患者さんが安心して社会復帰できるよう支援をしています。24時間救急体制で地域医療に貢献し、患者さんから「ここにきて良かった」と実感していただける医療の実現を目指しています。

会員数 総数 9,884名

保健師 484名

助産師 199名

看護師 8,503名

准看護師 698名

(平成30年度9月末現在の加入者)

<https://www.oita-kango.com/>



## Contents

副会長あいさつ	2
トップに聞く 川島整形外科病院	3
平成30年度 大分県職能別交流集会	4
看護の現場から	6
平成30年度 リスクマネジャー交流会	7
第49回 日本看護学会—急性期看護— 学術集会	8
秋の行事（おしごと体験・いのち輝く！いいお産の日・食と暮らしの祭典・お知らせ）	10
委員会活動紹介	12
理事会報告／地区別代表者会議／Information	13
研修部だより	14
ナースセンターからのおたより	15
なんでもメッセージ募集／西日本豪雨で被災された方々へ 2019年度継続のお知らせについて・編集後記	16





川島整形外科病院  
看護部長 杉本 美代



整形外科看護に2015年1月から15回シリーズで「かわしまさんの日常外来」を掲載しました。その挿入漫画を担当した看護師が執筆途中で闘病生活に入りましたが、治療を受けながらも最後まで完成させてくれました。その看護師は昨年末40歳の若さで他界されました。「看護師が大好き。絶対に職場に戻りたい。」という彼女の看護への思いをつなぎたいという願いで、この本を作成しました。今、看護師の教材として役立てています。

## 常に配慮ある看護を心掛け「ベッドサイドは教科書です」を実践しています。

当院は急性期の整形外科専門病院です。骨折等の外傷や変性疾患に対する人工関節等の手術、骨・関節感染症に関連する手術、関節鏡下での低侵襲手術、手の外科等多岐にわたります。骨・関節感染症を高気圧治療装置で専門的に治療していることから、他院からの紹介や患者さん自身がインターネット検索で当院を探して、治療を受けられる患者さんが全国より来院されます。

高齢の患者さんも多く入院し、限られた在院日数では患者さんが安心して退院することはできません。地域包括ケア病棟を活用し、入院期間が長くなる患者さんへの対応や、リハビリ転院の患者さんを受け入れています。急性期から退院支援を計画的に行い、患者さん及びご家族の方が安心して笑顔で在宅復帰できる支援を目指しています。MSWや退院調整看護師を中心に、医師・セラピスト・病棟看護師等が連携し、患者さん個々に応じた退院調整を行っています。介護部門を活用することで、発症から在宅まで幅広い支援を行っています。

24時間をとおして患者さんの最も身近にいる看護師は、病態や治療経過を理解し患者さんに寄り添える看護を目指しています。時には教育者として、時にはアドボケートとしてベッドサイドから学び、患者さんの回復過程をとおして成長していけるそんな看護を目指しています。



他職種とのミーティング場面



毎月患者さんを対象に「健康教室」を開催しています。9月は看護部の担当で「認知症患者さんとの関わり～家庭内での支援の在り方～」というテーマで行いました。笑いあり、涙ありの素晴らしい内容でした。



高気圧治療装置



退院調整会議

医師・セラピスト・MSW/体位調整看護師・病棟管理者・在宅管理者が1回/Wに集まり、全患者さんの治療経過、在宅支援について検討します。